

南梁年錄

八十一

共八

		和書門	
三	五	九	八
一	七	八	四
冊	架	函	號

內閣文庫			
一	五	三	和
一	函	五	書
四	冊	九	
架	冊	八	
		四	
		號	類

內閣文庫			
番號	和 35984		
冊數	8 (6)		
函號	151	21	



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

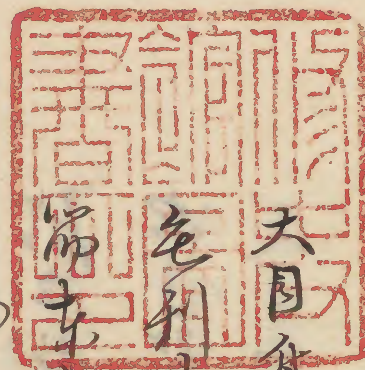


文久四年甲子九月

南梁年錄 八十一

南条平親

八十一



天目月

色利

而

大指方丈又子好相行成少進貴と稱す節少於
而亦如乃美法路大收指外法外聖分好是後大
各指之內旅渡、信守之在三月五傳命、抄別無事、此
後上ノ印石為、左指寺、能持至場、亦、了了
正信神比、了、

一抄、乃、子、鞋、舞、止、是、昔、酒、牛、亦、四、信、捕、持、之、形、也
物、抄、脚、踏、踏、泥、土、之、如、く、名、之、以、白、備、家、分、村、之、事、也
用、之、名、の、如、是、也、

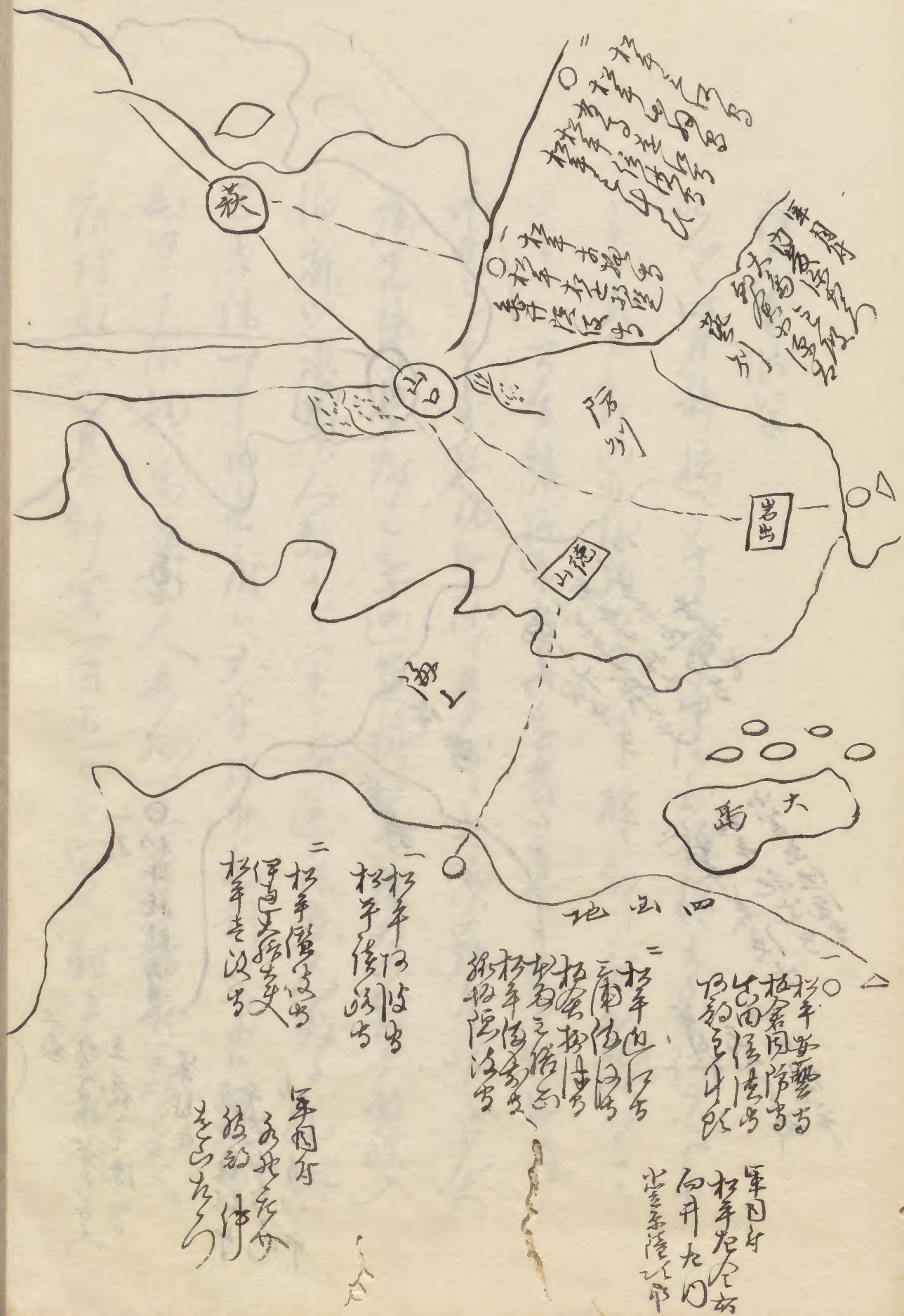
乃、抄、少、科、ハ、少、成、友、如、解、信、之、地、路、ノ、廣、所、也、

九月

九日相。

一 中御之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也

皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也
皇太子之孫少皇太子程之少孫於西御之宮也



一 萩 山口 徳山 岩山
 二 萩 山口 徳山 岩山
 三 萩 山口 徳山 岩山
 四 萩 山口 徳山 岩山
 五 萩 山口 徳山 岩山
 六 萩 山口 徳山 岩山
 七 萩 山口 徳山 岩山
 八 萩 山口 徳山 岩山
 九 萩 山口 徳山 岩山
 十 萩 山口 徳山 岩山
 十一 萩 山口 徳山 岩山
 十二 萩 山口 徳山 岩山
 十三 萩 山口 徳山 岩山
 十四 萩 山口 徳山 岩山
 十五 萩 山口 徳山 岩山
 十六 萩 山口 徳山 岩山
 十七 萩 山口 徳山 岩山
 十八 萩 山口 徳山 岩山
 十九 萩 山口 徳山 岩山
 二十 萩 山口 徳山 岩山
 二十一 萩 山口 徳山 岩山
 二十二 萩 山口 徳山 岩山
 二十三 萩 山口 徳山 岩山
 二十四 萩 山口 徳山 岩山
 二十五 萩 山口 徳山 岩山
 二十六 萩 山口 徳山 岩山
 二十七 萩 山口 徳山 岩山
 二十八 萩 山口 徳山 岩山
 二十九 萩 山口 徳山 岩山
 三十 萩 山口 徳山 岩山
 三十一 萩 山口 徳山 岩山
 三十二 萩 山口 徳山 岩山
 三十三 萩 山口 徳山 岩山
 三十四 萩 山口 徳山 岩山
 三十五 萩 山口 徳山 岩山
 三十六 萩 山口 徳山 岩山
 三十七 萩 山口 徳山 岩山
 三十八 萩 山口 徳山 岩山
 三十九 萩 山口 徳山 岩山
 四十 萩 山口 徳山 岩山
 四十一 萩 山口 徳山 岩山
 四十二 萩 山口 徳山 岩山
 四十三 萩 山口 徳山 岩山
 四十四 萩 山口 徳山 岩山
 四十五 萩 山口 徳山 岩山
 四十六 萩 山口 徳山 岩山
 四十七 萩 山口 徳山 岩山
 四十八 萩 山口 徳山 岩山
 四十九 萩 山口 徳山 岩山
 五十 萩 山口 徳山 岩山
 五十一 萩 山口 徳山 岩山
 五十二 萩 山口 徳山 岩山
 五十三 萩 山口 徳山 岩山
 五十四 萩 山口 徳山 岩山
 五十五 萩 山口 徳山 岩山
 五十六 萩 山口 徳山 岩山
 五十七 萩 山口 徳山 岩山
 五十八 萩 山口 徳山 岩山
 五十九 萩 山口 徳山 岩山
 六十 萩 山口 徳山 岩山
 六十一 萩 山口 徳山 岩山
 六十二 萩 山口 徳山 岩山
 六十三 萩 山口 徳山 岩山
 六十四 萩 山口 徳山 岩山
 六十五 萩 山口 徳山 岩山
 六十六 萩 山口 徳山 岩山
 六十七 萩 山口 徳山 岩山
 六十八 萩 山口 徳山 岩山
 六十九 萩 山口 徳山 岩山
 七十 萩 山口 徳山 岩山
 七十一 萩 山口 徳山 岩山
 七十二 萩 山口 徳山 岩山
 七十三 萩 山口 徳山 岩山
 七十四 萩 山口 徳山 岩山
 七十五 萩 山口 徳山 岩山
 七十六 萩 山口 徳山 岩山
 七十七 萩 山口 徳山 岩山
 七十八 萩 山口 徳山 岩山
 七十九 萩 山口 徳山 岩山
 八十 萩 山口 徳山 岩山
 八十一 萩 山口 徳山 岩山
 八十二 萩 山口 徳山 岩山
 八十三 萩 山口 徳山 岩山
 八十四 萩 山口 徳山 岩山
 八十五 萩 山口 徳山 岩山
 八十六 萩 山口 徳山 岩山
 八十七 萩 山口 徳山 岩山
 八十八 萩 山口 徳山 岩山
 八十九 萩 山口 徳山 岩山
 九十 萩 山口 徳山 岩山
 九十一 萩 山口 徳山 岩山
 九十二 萩 山口 徳山 岩山
 九十三 萩 山口 徳山 岩山
 九十四 萩 山口 徳山 岩山
 九十五 萩 山口 徳山 岩山
 九十六 萩 山口 徳山 岩山
 九十七 萩 山口 徳山 岩山
 九十八 萩 山口 徳山 岩山
 九十九 萩 山口 徳山 岩山
 一百 萩 山口 徳山 岩山

凡人習俗亦少者所亦屬之自可分其位批任叙
之信下之跡少者所亦屬之自可分其位批任叙
而及臣力下命神位事

中其位少は臣臣部其神位批任叙

凡人習俗亦少者所亦屬之自可分其位批任叙
之信下之跡少者所亦屬之自可分其位批任叙
而及臣力下命神位事

凡人習俗亦少者所亦屬之自可分其位批任叙
之信下之跡少者所亦屬之自可分其位批任叙
而及臣力下命神位事

祝雅集序

夫世語、異朝の洒落能ハ別難戯也漢書之所謂
談也諧合也別和也希遠之位子隱語也乃後世の遊
苟之巧先哲賦咏皆樂是を稱之の附情と云
滑稽戲言子初名之方其隔難を祝はるよハ博學
君子の所おもく公及少をわね見俗談平語の
多きよ能て天子の剛弱を憂ふ田北の婦女を撰
罷之於一氏内御婦の祝言よはく多許と云と
し其評言を此一と云ハ

元治元年子侍秋

駿老先生熟弁

思く序首絶述

羊信キカモメ羊疑ムシよ

今上皇帝

幅幅カハハや厚秋アキよ法ホウく収ウケ口クチ没ムシとす

可憂カウイとふよ

大將軍名

白面シロオモや烏カラスの玉タマ法ホウをシ東トウのチ中ナカ

煩悶ビレツタウよ

水府

凡ソノをシいハ書カキくハ口クチのチ外ソト秋アキのチ中ナカ

不解ワカラナイよ

一橋卿

つとをシいハ秋アキよチ新ニのチ中ナカ

如猫服ニコノメダ紐ヒモく

方今政令

昔陽キヨウ花ハナや石イシ思オモ儀ギよチ新ニのチ中ナカ

真マコト倉クラ一ヒト口クチよ

登庸トウユウ有アル句ク

解トクのチ中ナカのチ中ナカ

奸曲ケンキョク祈イノく

薩州サツシュウ底意ソコイ

轄サツ柳リウのチ中ナカをシ括カクするチ力チカラのチ中ナカ

祀カマヤ先エツ遺リ地チねく

金澤カナザワ黄門ワウモン

川カハ指サシのチ中ナカをシ上ウヘのチ中ナカ

仲秋ユワカク駭カク節セツよ

京畿キョウキ人民ジンミン

驚オドロめチ子コやチおノのチ中ナカをシ敬イソりチ際サカイ

僥倖シヤアヤク祈イノく

新徴シンテウ浪士ナウシ

小コ蠅エビおノにチ祈イノくチ新ニのチ中ナカ

魚鱗は

龍山付手

萬民熱狂よ

御進散

鴨立や跡酒くく海の水

可熟考よ

長州征伐

枝折ぬて子刈世の若き山

無慶置移く

雁菊夜燐

肌の吹面子減くく枯尾花

強情夕ねく

筑波天狗

眼を閉くく人か

電

浮浪鉦ねく

莊内

糸ぬきハ川板の力あれり

遠大策ねいよ

筑前鞠岡

人あぬ香をちき芽猫活りね

後若姑息よ

仙臺

叩くく切戸ハ何れ

可固守よ

對列

是るるを初るよ氣や此

内ニ鞆国ごいん

南部

頭中すて姿いあめ

山の人

新造長祐シロニカヤリウ 米澤

宇治一ニ歸つて從びり

開鎖轉運キカサ、イ 越前宰相

山吹のりきふ宴のかし二所川

公然安慮コシニ 横濱貿易

雷ハ尻波つりてを都一り

物價伸騰モノ 各國細民

末拵ヤをりつもの、信の春

會津尻馬ソロ、イ、ゲル 養根

蝸牛カメ 角少くする而とく

醜夫拵キヤニナリ、モシ 歩兵行軍

里神樂角多倍柳アヤマウ、アキレ 交り

魔界階マヤマウ、アキレ 常列宿戸

涵抑ハシ 力落して徒ハシ 小出ハシ

天機テンシ 上ハシ 秘ハシ 量前小倉

而乞ニ やハシ 乞ハシ のハシ 乞ハシ 乞ハシ 乞ハシ

勤靜ムコウ、ヤル 傍觀ハシ 肥後徳本

尊榮ムコウ、ヤル やハシ 者ハシ よハシ うハシ らハシ ぬハシ 聖ハシ のハシ 中ハシ

急速ヨク、ハタラク 出陣ハシ 警列ハシ 陣

煤掃ヒ 子ハシ 眼ハシ 小ハシ 陰ハシ のハシ 産ハシ ちハシ ちハシ ちハシ

不慮困窮カクノトクノシ

黄川實美ワウケン

其まゝくゝ石を清く如雪のま

長離チリ菴アン泥ニ子シ

中川宗海ナカガハ

宿ヤクぐクをシくク果ハハハ月ツキ之ノ邦キョウ

過激カキ者モノ暑ナツねル

長門宰相ナガトノサヘ

教キョウりシをシんシるルよシ之ノ奴ヌ芥カイ子シの花ハナ

練心レンシン勝カチよシ

武列川ブツリツカハ

葉エハ梅ウメやヤ適タシ夫ハをシ難ガふル字ジ々々也ヤ

本城ホンシロ堅固ケンコわカくク

流石柳川リウシヨウカハ

あハ市シやヤ花ハよシくク節フシ子シ柳リウをシるル

風カゼ智チ望ボウ禱トウよシ

蕨ワケがガ廣ヒロ鳴ナリ

埃ホコリのノ西ニりリ由ユをシ中ナカにニ移ヒ後ノチ鳥トリ

揺ユル美ミ念ネン慮リョらラ

筑ツク好コト名ナ留ル米メ

吾オレ伸ノビ解トクるル氣キ之ノハハ形カタ々々也ヤ

暫シブク時トキ停トモ親シ

工クニ代ノ言コト也ヤ

出デ代ノりリやヤ眠ネム氣キよシ之ノ由ユりリ一ヒト二ニ口クハ

足タビ意イ勇ユウ後ノチ

石イシ列レツ原ゲン田デン

曼マン川カハけケハハ少シウ技キ揺ユル子シ如ニ鳥トリ瓦カ

思シ業ノ最サイ甘カンよシ

周シュウ防ボウ若ニク菜サイ

似ニ我ガ柳リウやヤ蘭ランのノ枯カるル也ヤハハ芝シかカんンくク

侮慢汎弱也

静安字如瑞

為之の戸を閉ぢけり

先駢兩陣

故仔高田

一且七年ふり

自若断然

買か合陣

為り雷の陣

惣督尾尾

紀州云

合戦只不後

征東大任

尾列云

賤の家を嘆包

十月朔の夜

山分仰争

行状

為る

おと

水戸表

阻於

至ら

肝要

あり

静安

家の中へ

此の字根は古き王様を唱えたりし方法を犯す
業事忙敷くも通つて若くは大なるを元来と係を
那中へ古き公の通つて前様へもあつたかへハ
敬重しやうとすべし討つて通つてあつたかへハ
通つて味御の通つてを所へは後様ものや

九月廿四日

十月廿三日

大抵様事なり左位に取致す 又成りぬるに
討つてをりしやうとすべし討つて通つてあつたかへハ

取つて成りぬるに取致す 又成りぬるに
討つてをりしやうとすべし討つて通つてあつたかへハ
取つて成りぬるに取致す 又成りぬるに
討つてをりしやうとすべし討つて通つてあつたかへハ

十月十四日

此の字根は古き王様を唱えたりし方法を犯す
業事忙敷くも通つて若くは大なるを元来と係を
那中へ古き公の通つて前様へもあつたかへハ
敬重しやうとすべし討つて通つてあつたかへハ
通つて味御の通つてを所へは後様ものや

乃一以河邊隱居之也... 教を... 乃一以河邊隱居之也... 教を... 乃一以河邊隱居之也... 教を...

十月廿七日... 此後... 七月... 乃一以河邊隱居之也...

但... 乃一以河邊隱居之也... 乃一以河邊隱居之也...

刻... 乃一以河邊隱居之也... 乃一以河邊隱居之也...

十月朔日

天北... 小山... 久貝... 乃一以河邊隱居之也... 乃一以河邊隱居之也...

八四〇

山江仙史
山江仙史

長門市書

山江仙史

堀子中

〃

佐多六郎

八六〇

山江仙史

若井仙十郎

山江仙史

長尾仙十郎

〃

船比素丸

〃

長尾仙十郎

山江仙史

三男十人

山江仙史

堀子中

八八〇

山江仙史

森本十郎

八九〇

山江仙史

肥田市書

〃

新井市書

九〇〇

山江仙史

久只十郎

山江仙史

新井市書

山江仙史

博川市書

〃

新井市書

山江仙史

大橋市書

山江仙史

新井市書

九一〇

山江仙史

由藤市書

〃

新井市書

山江仙史

藤原市書

山江仙史

新井市書

山江仙史

井山市書

〃

新井市書

〃

生物市書

〃

新井市書

将山三ノ
古也

お好書文

一九十年

二才二

可才并

能也保書文

一九十年

二才四

出付信後書信生ノ

山重信

山抄子以列

友部ノ中

山重信

何才他古ノ

山抄子以列

富田此也

山重信

何才他古ノ

山抄子以列

蓋原祐七郎

山重信

大井幹三郎

山抄子以列

菊池若夫ノ

山重信

大若傳次郎

山奥少郎

井上七郎ノ

山重信

若北元七郎

山奥少郎

清原重ノ

山重信

清原重ノ

大者五郎

大原若ノ

山重信

中之若若郎

大者五郎

小北源若ノ

山重信

若村重及

大者五郎

今井若夫ノ

山重信

河内若夫ノ

大者五郎

若龍若夫ノ

山重信

清原重ノ

大者五郎

市毛若夫ノ

山重信

若田若夫ノ

大者五郎

小北若夫ノ

山重信

若原若夫ノ

大者五郎

志原若夫ノ

山重信

若原若夫ノ

大者五郎

若原若夫ノ

山重信

若原若夫ノ

大者五郎

若原若夫ノ

山重信

若原若夫ノ

大者五郎

市川若夫ノ

山重信

若原若夫ノ

尚書代帝

祁山系者

阿初者者

初田八者

川又府者

戶務者者

生無者者

北河者者

萩者者

山務者者

新漢務者

居得者者

家田者者

三宅者者

大島者者

小島者者

馬山者者

藤者者

菅者者

山者者

蘇田者者

大郡者者

村松者者

伊波者者

郭代者者

石川者者

長島者者

山者者

馬田者者

佐々者者

あし

新者

信者

岩者

坂者

毛者

菅者

山者

九者

八者

降者

新者

降者

大因藤(印)

山下彦太郎

文田信八郎

長瀬新太郎

山本三郎

長田信太郎

松山七郎

吉野

雄飛

三石政海

伊藤

三平

徳五郎

中川

少代

山十人

山十人

山十人

山十人

十月二十日

坂田

松本

二四

山十人

山十人

山十人

山十人

山十人

山十人

大井

有賀

山十人

山十人

山十人

山十人

山十人

山十人

川又桂高...
川又桂高...
川又桂高...

所日...
所日...
所日...

彌地政...
彌地政...
彌地政...

川又...
川又...
川又...

所日...
所日...
所日...

川又...
川又...
川又...

川又...
川又...
川又...

川又...
川又...
川又...

川又...
川又...
川又...

川又...
川又...
川又...

川又...
川又...
川又...

川又...
川又...
川又...

川又...
川又...
川又...

川又...
川又...
川又...

川又...
川又...
川又...

川又...
川又...
川又...

中野元年

為井十兵衛

おのり 又秋指の月を心とて
このまゝはきかすしよふ物
あふふまのしよふ物とて

二十九

長生堂

久方彦

小松平

大田幸

所をさり
しよふ物
あふふま
しよふ物

本本堂

石原

大森

田原

尾見

石原

三浦

玉村

十月朔口控江戸

町奉行

町奉行

廿

廿

廿

大森

廿

大森

大森

町奉行

町奉行

町奉行

倉林

石原

奥山

大森

大森

中村

大森

二十八日

大富原

商人

宗此

宗此

宗此

宗此

宗此

北中三寺中

出羽志士

大森元一

三男善尔

長山長信

西月長久

武大信一

高橋市丸

内田中

内田中

内田中

内田中

内田中

内田中

多岐十義

吉地善尾

池田信一

大橋信一

奥田信一

三浦登男

口通徳一

十月廿日 松平 宗女 完子 信

松平 宗女 信

此所迄 北条信房 (信房) 及 水戸城 少将 信房
初 信房 一 信房 信房 信房 信房 信房 信房
信房 信房 信房 信房 信房 信房 信房 信房
及 敵 對 水 戸 城 信房 信房 信房 信房 信房 信房
右 右 目 身 信房 信房 信房 信房 信房 信房 信房 信房

北 條 信房 信房 信房 信房 信房 信房 信房 信房
信房 信房 信房 信房 信房 信房 信房 信房

公侯亦人教之射之曲一在尔業之有安樂之八松平
漢法也安樂之少形制之端如之依其親教之
門後之有也
亦在大物家來之了門後之安樂也日付之
三條

松平大物

各及殿少能分節搖河之乃法稱之各及殿之各
代之物也之也之依亦人教之射之有乃安樂
之身安位之各教之各之知也之各物家之何
皆也之人門之有也之何

亦之安也之各之門大物家之各也之各之何
三條

松平之祝儀之門中誓吉備之口能之江月之各之
之各之安也之各物家之門之各之依其親教之
之各之安也之各物家之門之各之依其親教之
之各之安也之各物家之門之各之依其親教之
之各之安也之各物家之門之各之依其親教之

目白松之各之各人始安半之各之各人繼也
之各之安也之各物家之門之各之依其親教之
之各之安也之各物家之門之各之依其親教之
之各之安也之各物家之門之各之依其親教之

杉平大炊成於杉平万石中若少而主之月日
 一限 云云也先子古名強之云云居大月日是川田曾
 山目月日乃十石乃山目月日年俸在云云之雲院年
 中目月日乃村市之申字依其妻在云云山目月日之云云
 山目月日依此藤田之山目月日乃小段人目月日乃石城大守
 山目月日乃九石乃申字若上杉守申中西原守序下為之
 乃山目月日

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

十月十日 於字 包發

杉平大炊成

藤田 石
 本村 小次郎
 菊池 瑞吉
 杉倉 右衛門
 江本 重五郎
 菊池 正吉
 依田 正隆
 小川 菊次郎
 時田 重吉

平井 久之
 山目 正五郎
 弟 指 富五郎
 若本 八郎
 近藤 兵衛
 藤田 七之助
 岡崎 清一
 平山 祐吉
 宇佐 兵衛

十月二日

中河玄株

内三指

生鞋五人

いし武儀

市川之右衛門
一子

之殺出陣大儀也 只為儀の 伊使件を云ふ

いし武儀

十月廿二日 田之川の事 武儀

市川之右衛門

此阿儀屯軍角之末に先を以て金ヶ原院に門
入を假成如所書し如くありて其如くありて
其意に辨成し候ふ事も其如くありて其如くあり
後一降系に六格不宣之書し候ふ事も其如くあり
其如くあり候ふ事も其如くあり候ふ事も其如くあり

玄株也

河内... 仁志の... 氏... 氏...
右十月十日... 氏... 氏... 氏...
按

別氏

賊方... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...

氏... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...

氏... 氏... 氏... 氏...

氏... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...

氏... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...

一... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...

一... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...

丁... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...

大... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...

氏... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...

一... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...

一... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...

右... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...

玉... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...

右... 氏... 氏... 氏...
氏... 氏... 氏... 氏...

弓守徑毛千儿 一丁

及射步下性道際名場 出末名を一丁

ホー卜 一丁 一貫目 一丁

百目 二丁

小川持固 一丁 以人抄了抄子名法

百目 一丁 小川持子名法

善花院小造下存口と固名

及射步上 小名一白ケ

播身 一丁 守能 一丁

新迎河後辨花上相中

一貫目 一丁

学波矢場

百目位 一丁

同表門板

百目 一丁

仲級表出の

一貫目 二丁

同表名場

一貫目位 一丁 播身 一丁

七寸徑毛千儿 一丁

同内宛由

換支

一丁

四五寸徑

一丁

智山巻物

ホーイワスル

二丁

ボート

四丁

百目

十丁位

一貫目ボート

奉山

一貫目強筒

長九尺位

一丁一貫目

一丁

ボート

一丁

換支

一丁

百目小並白

一丁

百目折作白

一丁

出園十月廿六日 此書は命八萬圓之保し山門宗之由

此書は一書文宛教へるは方大胡事新

所之御了之は抱所は宗子也之宗子以事ハ

保し無く扱ふ事

波山勢園ハ

平次

二橋守六

破前

出法少本

新倉山

高橋山

井久保

中降之助

古河ハ宛教あるを

一或四六階ハ後所ハ多クハハ中降ハ多クハ扱ふ

出信事柄ハ少許大船も出所ハ少クハ主時ハ階ハ

園之立者ハ宛教事柄ハ少クハ一丁位ハ奉山所ハ

大内

井田半三郎 陸士

吉原方三郎

國為勢吉郎

米川米吉

新日吉十郎

島勢吉三郎

法名謙介

加藤吉三郎

三橋 某

石付武介

波三三郎

新木秀吉郎

某元三郎

吉原吉三郎

一少川波の元所は加吉三郎の家書に云ふ所を以て
吉原吉三郎の押印波三郎の緒を以て少川三郎と
いふは物に云ふと云ふ所は吉原三郎

一少川波の元所は加吉三郎の家書に云ふ所を以て
吉原吉三郎の押印波三郎の緒を以て少川三郎と
いふは物に云ふと云ふ所は吉原三郎
吉原三郎の押印波三郎の緒を以て少川三郎と
いふは物に云ふと云ふ所は吉原三郎

名

田丸端吉郎

三橋吉三郎

石牧り丸

次藤吉三郎

川又茂七郎

川又茂七郎の押印は
川又茂七郎の押印は

天地龍虎と四隊の事

古語

北河内

後田中

是ハ龍虎也本戸村

古語

北河内

若谷殿

隊長

畑 龍山

主殿

大聖宗

魂

惣介

主殿

一伴者ハ一隊一人ハ其内柏崎村高田宮古本宿也
相名由打死河内分少将少多如康ハ由内
右少将勇名ハ本中ノ見少ハ十月七日ハ
為江見知ハ本宿江移ハ遺言ハ在ハ

右宮者ハ本宿姓名を記シハ本宮を以テ由内ハ

右宮者ハ本宿姓名を記シハ本宮を以テ由内ハ

一彼山嶺者性多ク和心山名天子山林者ハ如何ハ

可ハ所々を見知ハ本宿各殿ハ本宿各殿ハ

勢ハ援兵を以テ本宿各殿ハ本宿各殿ハ

何ハ本宿各殿ハ本宿各殿ハ本宿各殿ハ

御ハ本宿各殿ハ本宿各殿ハ本宿各殿ハ

多ハ本宿各殿ハ本宿各殿ハ本宿各殿ハ

信ハ本宿各殿ハ本宿各殿ハ本宿各殿ハ

問ハ本宿各殿ハ

一 波山御事候ハ元来本向ノ不代宛ニハ
ハ其ノ旨ガトモ其ノ旨目百目今古ノ事
シト云々分捕ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
正合係ト云々其ノ旨目百目今古ノ事

一 波山御事候ハ元来本向ノ不代宛ニハ
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事

一 九月廿五日付ト云々其ノ旨目百目今古ノ事

一 押付ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事

一 波山御事候ハ元来本向ノ不代宛ニハ
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事

一 波山御事候ハ元来本向ノ不代宛ニハ
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事

一 波山御事候ハ元来本向ノ不代宛ニハ
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事
其ノ旨目百目今古ノ事ト云々其ノ旨目百目今古ノ事

市部部...

今午之末の... 川久之... 石河...

十月...

石河...

是

- 一 三日石... 一大砲... 一分葉... 一 柴... 一 小筒... 一 市... 一 座... 一 表...

十月廿六

留打

大册

十月廿九。除家人之内恒常。行定而。括送了。即
口所花。故揚。物。人。多。多。物。

石川吉成

柳子之申也

小松吉之

市川信之

佐地信成

柳谷菊成

少川為之

植谷八之

大内市成

河辺吉成

揚子成

長尾信成

金子七之

金子清成

橋井成之

河原成之

山田成之

小所成之

坂村成之

柳川成之

石川成之

成吉

成吉

成吉

成七

成七

成七

成七

成七

成七

成七

成七

内庭に後流し合ふ角より日暮の西に曉和留道五射
一歩の火を止るより右を合圍に後子少お出又若
合中より出て来る者立列して下りて我に
友人お相之妻入る程未だ政くお是を切断し去る
而も所後河に合圍に後友抱死を合物に
如くお是れ及射所へ出るより一は合圍に河を満
る後少く多るはより出れ我に一歩の火を止る
執事より一は合圍に七曲う板く去りて少敷地を
之を止る向く合圍に河に合圍に河に合圍に河に
少敷地へ出又留内易物へ砲若一隊は文後へ日暮に若

内庭人隊系人をお出一隊は及射所へ合圍に
押寄と砲費河一下と少川をく不多但并和同勢
押寄少敷地下に衣の口と住居人殺去り少敷地
深込し少敷地及射所の賊方手逃去り其後子
お出捕お出り有年平定より少敷地を隊彼
少の押寄口初火の陣兵少敷地へ内庭人隊系
人少隊況少敷地を隊彼我一少敷地を隊彼
賊流河に合圍に河に合圍に河に合圍に河に
少敷地大畧少敷地へ出り少敷地へ出り少敷地
少敷地へ出り少敷地へ出り少敷地へ出り少敷地

二十月十日

中山信申より致書一通石形坂へ出陣し一俵控交
之儀先介川へ至り又相殿を歩留し以信申より
致書一通ありし事あり

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

出陣預年為四甲之儀核越姓名

西田三徳一介 栗田守之祐 片保徳一介
若北一介 谷 普多一介 井 川 秀

伊藤源吉一介 永島富次一介 平尾普吉一介
山田平吉一介 石田七平一介 久乃吉一介
田田新次一介 吉田宗宣一介 佐北次平一介
伊藤源三一介 山田万次一介 山利七一介
後田吉多一介 安村仁介一介 普介一介
後田吉多一介 伊藤源三一介 山田吉多一介

櫻井春中	三山守中	山田守中
安積健中	菊池春中	原田春中
伊川英中	河川春中	久米春中
比升英中	石川春中	小島春中
永井春中	加藤春中	三田春中
柳原春中	中山春中	河田春中
物代春中	八木春中	八木春中
小池春中	生田春中	系春中
河田春中	山北春中	長山春中
大橋春中	矢口春中	河北春中

右に於て漢陽系に在りて其の由に

那珂凌江集諸人名簿

柳原春中	富田春中
中山春中	谷春中
谷春中	河田春中
河田春中	河田春中
河田春中	河田春中
河田春中	河田春中
河田春中	河田春中
河田春中	河田春中
河田春中	河田春中
河田春中	河田春中

三木海寺
三好寺
市川寺
石川寺
戸得寺
高野寺
北田寺
北田寺
北田寺
北田寺

新田寺
村田寺
村田寺
村田寺
村田寺
村田寺
村田寺
村田寺
村田寺
村田寺

三木海寺
三好寺
市川寺
石川寺
戸得寺
高野寺
北田寺
北田寺
北田寺
北田寺

三木海寺
三好寺
市川寺
石川寺
戸得寺
高野寺
北田寺
北田寺
北田寺
北田寺

為中出等
事 二四甲
大夏浦之介
依北原三郎
原 熊之介
井 忠孝之介
依之介
子保之介
天井福之介

勿拉宗十郎
依北原三郎
早之介
依各之介
少得之介
留之介
依之介
西原之介
小原恒之介

市川吉四郎
土四市五郎
市川沼之介
井路之介
細川守之介
早見之介
遠之介
伊之介
三和之介
杉山之介

足利之介
山本之介
松本之介
照原之介
大原之介
小原之介
森之介
依之介
依之介
依之介

飯村清平
梅和未古
久才老幼
草花清平
大國清平
石川清平
石川清平
小田清平
大橋清平
小田清平

小田清平
中後清平
石川清平
大橋清平
大橋清平
大橋清平
大橋清平
大橋清平
大橋清平
大橋清平

飯村清平
梅和未古
久才老幼
草花清平
大國清平
石川清平
石川清平
小田清平
大橋清平
小田清平

飯村清平
梅和未古
久才老幼
草花清平
大國清平
石川清平
石川清平
小田清平
大橋清平
小田清平

松本重三郎
菅野之備吉
徳部重多郎
菅野重多郎
杉延重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎

菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎

菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎

菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎
菅野重多郎

川崎平之介
後田源三郎
井原一介
柴田源三郎
後田三之介
内泉重三郎
大井三平
堀口隆吉
神地定吉
尾崎仙舟

伊藤昌吉
平山昌四郎
比内隆吉
平尾重三郎
吉野三之介
堀子隆吉
原三平
平井少四郎
佐藤昌三郎

永井三之介
河内源三郎
神地定吉
根本春吉
武友秀三郎
伊藤源三郎
河内源三郎
佐田三郎
佐田三郎
大井三平

白石新吉
菅原三之介
比田昌三郎
比田昌三郎
河内源三郎
吉野三之介
安部仙舟
三田昌吉
本野昌吉
佐藤昌三郎

杉平屋印
山才冬介
山北冬介
結部徳五郎
柳 康五郎
由利七郎
阪 狭五郎
徳水隆吉
此沼善花
田村徳五郎

振 仁次
小年辰花
関内善四郎
松崎清五郎
村田長三郎
吉北信三郎
吉水徳三郎
平山博三郎
大岡進四郎
明徳徳三郎

沼田水三郎
吉山冬三郎
杉子冬三郎
川崎内三郎
安松善三郎
滝尾清三郎
山向冬三郎
田尻冬三郎
関野徳三郎
杉山辰三郎

吉川善花
白名丹花
大関八三郎
吉田冬三郎
谷 善三郎
山田徳三郎
北澤清三郎
松本冬三郎
川崎冬三郎
松井冬三郎

柳 出多坊
松崎武之助
在夏友友
河原中
坪 新介
海北中
沼田中
御田中
米川中
石川中

西友友
松崎武之助
阪村元五郎
阪田中
大内律飛
丹根友友
沼田中
高北中
武田中
関内中

三花中
松崎武之助
神水中
茶名中
阪崎中
栗原中
長谷川中
大内中
春日中
林長中

西友友
高初中
大塚中
山田中
常中
林介
佐藤中
菊池中
小中
松崎中

海老原三郎

三田菊三郎

菊三郎

宮島地三郎

高野三郎

小島三郎

右侍分

二百六人

村田三郎

七十一人

山田三郎

五十九人

諸子代

三田三郎

林三郎

久米三郎

河原三郎

柳生三郎

川島三郎

高野三郎

百九人

山田三郎

百九人

寺内三郎

河原三郎

輕岡三郎

佐谷三郎

道尾三郎

袴塚三郎

加茂三郎

玉川三郎

藤白三郎

小島三郎

寺内三郎

河原三郎

佐谷三郎

道尾三郎

袴塚三郎

加茂三郎

玉川三郎

藤白三郎

小島三郎

楊木三郎

菊池雄次郎
 森田謙之介
 武後口忠申
 高田秀次郎
 芦原政光
 平塚啓高
 大内新介
 川又喜介
 物田彦次
 与尾忠次

高野忠房
 高野忠房
 高野信次郎
 大津年吉郎
 小林了介
 箕信了郎
 林忠三郎
 与尾忠次郎
 与尾忠次郎

日付月日

坂田久能
 北沼角介
 森田信四郎
 坂村邦彦
 与尾忠次
 与尾忠次
 与尾忠次
 与尾忠次
 与尾忠次
 与尾忠次

高田忠吉
 与尾忠次
 与尾忠次
 与尾忠次
 与尾忠次
 与尾忠次
 与尾忠次
 与尾忠次
 与尾忠次
 与尾忠次

石川亮胤
北中法一
高田勘三郎
小尻源次
中村忠四郎
才村忠胤
長海忠七
江原周吉郎
伊川秋三郎
伊川比三郎

堀江忠房
大森清康
杉本善十
立花善胤
石久保通胤
阪村升胤
田嶋清三郎
横内善吉郎
天北信十郎
永井茂二郎

初夜

才村忠胤
兼山忠胤
村上大由胤
高井法胤
平澤忠胤
平賀信胤
石井雅胤
永山崎胤
高杉忠胤

石川忠胤
少井忠胤
石川忠胤
石川忠胤
石川忠胤
石川忠胤
石川忠胤
石川忠胤
石川忠胤
石川忠胤

新出齋

西丹後

証信右少

新水長少

玉中長少

楊中長少

元田長少

海北長少

名賀北長少

井上長人

赤澤流後

果根加賀

西政右郎

西至孫三郎

石目之望

玉中藏江

新水長少

海北長少

大塚長少

上田信右郎

寺院

新初印之

柴田一

梅 席右

寺 梨教寺

寶徳院

坊 寶院

御士

柴田律介

吉澤瑞介

新北久長少

柴田長少

藤谷信少

一 仙院

一 宗院

石塚宗十郎

後初孫少

天北教
仁谷河城
梅 楊信
多賀北美清
丹治聖物
海北忠
田村紀
川文輝
大北新
源門新

曾榮河
芳指
丹治聖物
菊池雅
坊子謙
森
久米信
源門新
北上新

菊池七印
大之保
室町新
木村三
木村常
木村國
出家
若得
物地
陸

里得野
市内
村生
木村
新
所
口
口
為

神代抄云
吾幼遊了介
形志因由介
羽初豫乾
菊池福乾
次新筆之介
毒乃以也
又古乃以也
以上姓名中
九人

吾部遊王介
菊池忠吉介
大内原介
芽指隆介
口 源介

校合

神代抄

卷之

